（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和　２　年度　学校自己評価システムシート（滑川町立宮前小学校）

目指す学校像	みんなが笑顔の学校

重　点　目　標	with coronaを踏まえた学校経営の推進 １　学力の向上、体力の向上 ２　豊かな心の育成、基本的な生活習慣の確立 ３　開かれた学校づくり（応援したくなる学校づくり） ４　教育の質の向上を図る働き方改革

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　　５名
　　事務局（教職員）３名

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　２月　１日　現在）			実施日　令和３年２月１５日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	○授業規律や学習意欲・態度については概ね良好である。 ○各種学力調査結果の活用を活用した授業改善サイクルが機能している。 ●新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた教育課程の編成し、子供の学びと心を守ることが重要である。 ○新体力テスト総合評価上位３段階（A＋B＋C）の割合が、90.4%である。 ●投力・柔軟性・跳力の向上を図るとともに、特性に触れた喜びを味わわせる体育授業を実践する。	学力の向上 体力の向上	○感染症対策に万全を期して、教育活動を推進する。 ○土曜授業日の設定、夏休みの短縮等により授業時数を確保する。 ○「学習活動の重点化」を図り、減じた授業時数に対応する。 ○主体的対話的で深い学びを目指した授業づくりを推進する。 ○「家庭学習のすすめ」「ターナちゃんノート」を活用し、家庭学習の充実を実現する。 ○特性に触れた喜びを味わわせる体育授業を創造する。	○方策の実施により「著しい遅れ」がなく教育課程を実施できたか。 ○学校評価に係る保護者対象アンケートで、「学力向上」に関し９割以上が好意的な評価したか。 ○体育授業改善に向けた取り組みを共有したか。	○著しい遅れがなく教育課程を実施することができた。 ○主体的対話的で深い学びを目指した授業づくりに取り組み、成果を上げた。 ○「読書名人」の取り組みや各教科・領域における言語活動の充実により読解力を高める指導に努めた。 ○学力4項目アンケートの平均で87.5%の保護者から好意的な評価を得た。 ○体育授業の改善に成果が見られた。	A	○各種学力調査の活用による授業改善サイクルを確立した。サイクルはまわし続けることが重要である。評価改善を続ける必要がある。 ○本年度は、コロナ禍により授業参観を実施できなかった。GIGAスクールのシステムを利用し、オンラインによる授業公開や保護者会を検討したい。	・教職員や保護者は新型コロナウイルスの対応で大変だったが、子どもへの影響を最小限にとどめることができたのが良かった。 ・感染症対策のため校外に出て学習する機会が減ってしまったためか、５年生の稲刈り体験では、子どもたちの喜びの声が多く聞かれた。運動会や６年生の修学旅行など、形を変えたとはいえ主要な行事が実施できたことが良かった。
2	●臨時休業の長期化等に起因する子どものストレスに留意して教育活動を推進する必要がある。 ○自己有用感の育成、傾聴の指導は、一定の成果を得た。 ●あいさつ、丁寧な言葉遣いに課題がある。 ●自己有用感の育成、傾聴の指導を継続する。 ●ケース会議等関係諸機関の連携を一層強化する必要がある。	豊かな心の育成 基本的な生活習慣の確立	○家庭訪問、電話連絡、相談日等により、児童の心情と学習・生活の状況を把握し、励ます。 ○人事評価制度を活用し、自己有用感の育成、傾聴の指導の連鎖、連携を実現する。 ○研修により課題のある児童に対する指導力の向上を実現する。 ○教育委員会、健康福祉課、保健センター、嵐山学園、民生委員等関係諸機関との連携を強化する。	○児童、保護者対象のアンケートで、基本的生活習慣の確立に関し９割以上が好意的に評価したか。 ○学校自己評価で、児童像の育成に関して全職員が成果を認めたか。 ○関係諸機関との連携により、課題を解決したか。	○コロナの影響を受けての心身の健康不安は解消した。また、恐れ不安に起因するいじめ等はない。 ○アンケートでは86%の保護者から好意的な評価を得た。 ○関係諸機関との連携により、多くの案件が解決した。また、解決には至っていない案件についても、課題解決に向けてのプロセスが進行している。	A	○自己有用感、傾聴をキーワードとした指導・支援を継続してきた。少しずつだが着実に成果が上がっている。今後も目標の連鎖を意識し全職員が指導を継続する必要がある。 ○職員が関係諸機関との連携の在り方を学んだ事が重要である。今後とも、懸案事項や新たな課題に機敏に対応していくことが重要である。	・年度当初とくらべて、３学期は学習態度に落ち着きが出てきている。あいさつもしっかりできる児童が増えてきた。 ・生活態度がしっかりしていて落ち着いていれば学力も上がる。今後も家庭の協力を得ながら生活指導をしっかりしていくとよい。
3	○「開かれた学校」について好意的な評価を得ている。 ○見守り活動、奉仕作業、資源回収など保護者・地域の方から多くの支援をいただいている。 ●学校運営について理解を求め、保護者、地域社会、関係諸機関からの応援を取り付ける。	開かれた学校づくり（応援したくなる学校づくり）	○苦情を意見に読み替えて組織として対応していくことを確認する。 ○リスクコミュニケーションを意識し、保護者や地域住民の不安に自分の言葉で応え、合意形成を図る。 ○家庭訪問、電話連絡、相談日等により、児童の心情と学習・生活の状況を把握し、励ます。（再掲） ○スピード感のある対応を徹底する。 ○学校の方針を丁寧に説明する。 ○保護者や地域住民の声を丁寧に聞き、学校経営に反映させる。 ○関係諸機関と連携し、要保護児童等の課題や懸案事項を解決する。	○保護者等対象のアンケートで、「開かれた学校」に関し、９割以上が好意的に評価したか。	○コロナの影響を受けて、運動会や修学旅行等、例年とは異なる対応となったが、苦情等はなかった。 ○朝の登校指導等、保護者や地域の方の支援がひろがった。 ○アンケートでは88%から好意的な評価を得た。	A	○教育活動や児童の学びを実際に見ていただく機会が限られたことが残念である。オンラインによる授業参観等工夫が必要である。 ○ＰＴＡから「おやじの会」結成の提案もいただいた。学校応援団の活性化につながるものと考え、是非実現させたい。	・学校から保護者へできる限り情報発信し、保護者が学校に足を運ぶ機会や、保護者と接触する機会をできるだけ増やし、校長や担任と対話を重ねることで学校の良さを知ってもらうようにするとよい。 ・今後の行事の実施にあたっては、保護者にどう参加してもらうかが課題である。父親も活躍できる場を求めていると思われるので、具体的かつ無理のない協力を依頼することにより、父親が参加しやすい環境をつくることが大切である。
4	○勤怠ソフトにより、出勤退勤時間を把握している。 ○在宅勤務の経験を通して、ワークライフバランスの重要性を再認識した職員も多い。 ●県費負担教職員の超過勤務時間が過労死ラインを超えている職員も多い。 ●全教職員で知恵を出し合い、業務改善を図る必要がある。 ●教育の質の維持・向上のための「働き方改革」を意識し、行事の精選や教職員の意識改革を進める。 ●保護者や地域の方へも取組の理解を得られるようにする。	教育の質の向上を図る働き方改革	○持ち帰り残業を含めた勤務実態の把握を精確に行う。 ○保護者・地域への説明を丁寧に行う。 ○カエル会議を定期的に開催し、職員の意見やアイデアを改善活動に反映させる。 ○行事の精選を大胆に進める。 ○SSS（スクールサポートスタッフ）の活用を推進する。	○超過勤務時間を文部科学省上限ガイドライン（45h/m,360h/y)以内に収めたか。 ○教育の質を維持向上できたか。	○夏季休業の短縮の影響を受けた７，８月を除き、時間外勤務時間は減少した。 ○授業改善サイクルの確立とその改善や授業研究の充実により授業の質は向上している。	B	○アンケートから効率化や優先順位等、「働き方」に関してほとんどの職員の意識に変化が見られる。 ○働き方改革の目的は、児童と職員の達成感や幸福感にあることの視点で改革を継続する必要がある。	・教員の仕事の時間が減少したのは良いことである。教員が疲れていては良い仕事ができず、子どもたちのためにもならない。 ・たとえば新採用の教員がベテラン教員から学ぶ場や時間を設けるなど、ベテラン教員の良い実践を学校全体に広める工夫をしていくとよい。